



九月メロウ句会より

◇夕月夜坂の下なる蕎麦屋まで

止

◇初秋や雲のかたさのほぐれゆく

もくま

◇ひもじさが記憶の底の終戦日

自在庵

◇夜は子に肩叩かせむ菊人形

すかんぽ

◇塩の粒ぴかりと光りふかし落

くり南瓜

◇母に似た後婆や風は秋

小歩

◇萩の花我が身を削るごとく散る

安房守

◇山国の梢に残る暑さかな

自在庵

◇採れたての唐黍もらう垣根越し

小歩

◇切通し小さい秋が顔を見せ

宇宙人

◇名月や碁盤の黒はまだ粘る

桐子

◇魚市場競り声高し秋鯉

サヨシ

◇虫すだく炭鉦跡の殉職碑

走

◇棚田沿い紫山子並びてコンクール

ばあら